

平成 29 年第 14 回美唄市教育委員会会議録

1 と き 平成 29 年 9 月 22 日（金）
午後 4 時 00 分～午後 4 時 50 分

2 ところ 教育委員会室

3 出席委員
星野教育長 高橋委員 森田委員 齋藤委員 土肥委員

4 説明員
森川教育部長 阿部学務課長 西田学務課補佐 日下学校給食センター所長
松井指導室長 谷村生涯学習課長 谷川生涯学習課長補佐
川西スポーツ振興課長 高田図書館長 高橋総務係長

5 開会
高橋委員を署名委員に指名
会期を 1 日と決定

6 議件名

その他 1	平成 29 年第 3 回市議会定例会一般質問について
その他 2	学校給食における異物混入事案の公表等に関する基準について

概要記録

16:00

●星野教育長 ただいまから、平成 29 年第 14 回美唄市教育委員会議を開催いたします。順序第 1 会議録署名委員につきましては、高橋委員を指名いたします。次に順序第 2 会期の決定につきましては、本日 1 日限りといたします。次に順序第 3 教育長報告、行事報告、並びに行事予定について、事務局から説明をお願いいたします。

●森川教育部長 行事報告の前にスポーツ振興課長と学校給食センター所長が公務で本会議遅れますことを報告いたします。

それでは、資料に基づきまして、教育長報告、行事報告・行事予定につきまして、ご報告いたします。

※教育長報告（添付資料 別紙 1）

※行事報告、行事予定説明（添付資料 別紙 2）

●星野教育長 ただいま、教育長報告、行事報告・行事予定について、事務局から説明がありましたが、今の件につきまして、何かご質問等があれば伺います。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、次に移ります。

順序第 4 その他 1 平成 29 年第 3 回市議会定例会一般質問について事務局から説明をお願いします。

●森川教育部長 資料に基づきましてご説明いたします。平成 29 年第 3 回市議会定例会日程についてでございますが、第 1 日目 9 月 5 日本会議招集日でございます。続きまして、9 月 8 日、11 日が一般質問、12 日が常任委員会、13 日が補正予算に関する予算審査特別委員会、14 日から 20 日までが決算審査特別委員会、9 月 21 日が地域医療体制等調査委員会で、25 日月曜日が最終本会議の予定となっております。続きまして、2 番目の教育委員会関連案件ですが、総務・文教委員会におきまして、美唄市立学校設置条例の一部改正の件と美唄市立図書館条例の一部改正の件、美唄市立栄幼稚園の存続を求める陳情についての審議が行われました。3 番目の一般質問ですが、ここに記載のとおり、全部で 8 人の議員の方が質問に立ちまして、うち山崎議員を含め、合計 6 人の議員の方が教育委員会関係の質問をされています。以下、一般質問の内容についてご説明いたします。

※一般質問、答弁内容説明（添付資料 別紙３）

●星野教育長　ただいま、一般質問について教育部長から説明がありました。これについて各委員の方から何かありましたら伺いたいします。冒頭、山崎一広議員の３ページの再質問「市民会館に対する今後の考え方について伺います。」ということで、この教育委員会議の前段の教育委員会協議会の中でも、委員の皆さんにもお話ししましたが、その理由といたしましては、指定管理者選定委員会からあがってきた報告書に対しましては、教育委員会として、その内容を整理したうえで、教育委員の意見を聞きながら教育委員会としての意見をまとめると答弁しております。それを受けて、この前段、教育委員の方に意見を聞いたところでございます。その中では、今回、29年9月21日付けで美唄市文化協会の方から、報告書に対する上申書を、これは美唄市教育委員会と美唄市指定管理者選定委員会、この両方名で、上申書、これは報告書の総括意見に対する指定管理者側の上申書という内容で提出がありました。この内容について、一応、協議させていただきました。内容につきましては教育委員の意見を聞くということで、上申書の内容を説明させていただきました。内容的には、この報告書に対しては文化協会の考え方です。報告書に対しては、ここで述べられている地元でできない理由、これについては根拠に乏しいということですが、文化協会としてこれを論点としていないという上申書の内容になっております。論点としていないので、あくまでも今回の文化協会としての上申書の内容は、市外業者の技術面について優位性はあるということなので、地元でできないかどうかについては特にコメントの中にはありませんでした。あくまでも、技術面に対しての優位性があるということでありました。上申書のまとめの部分ですが、この報告書の中では教育委員会の方に再度調査を求められる事項が３件ほどありました。その１点としまして、保守点検業務について再度、報告書の内容について精査する内容が１点。清掃業務に対して見積合せに対しての再度調査をすること。それと北海道テレビ放送のHTB、これに対して、教育委員会として調査すべき、この３点が教育委員会に求められましたので、これも教育委員協議会の中で回答させてもらいました。その中で、改めて報告させてもらいますが、保守点検業務については、報告書では年度ごとに保守点検をやったり、やらなかったり、ということでその辺が不適正という報告書の内容であり、教育委員会もこれも再度調査させてもらいました結果、文化協会の保守点検業務については、会計処理上不適切な部分があったということを確認したというところであり、この点については文化協会さんの方も上申書の中で認めているところでもあります。それと清掃業務につきましては

は、ヒアリングの中では業者、個別に同じ説明をしたという内容でしたが、それについては、我々の確認した結果、別々の内容で説明したということが各業者に聞いた結果確認取れましたので、その辺も、先般、教育委員さんの方にもその旨説明させてもらったところであります。この点につきましては、我々も法律家ではないので、実際にこれはどうだ、こうだというコメントは差し控えますが、法令遵守すべき事項ができていなかったのではないかと感じているところではあります。北海道テレビにつきましては、録音した部分、それを外部に出す時点で、情報漏えい当たりますので、そのあたりは協定書の情報管理違反に抵触するのではないかとこのように考えておりますので、そのように各委員さんの方には回答させてもらいました。いずれにしても、教育委員会といたしましても、先程の教育委員協議会の中でもお話しさせていただいた通り、上申書についてもいろんな考え方があるでしょうけれども、教育委員会として今後どうするのか、ということに対しては、今後、協定違反ですとか、法令遵守すべき事項が守られていなかったということがあるものの、今後、この件についてずっと事実関係を究明していく、これは市民サービスの関係、市民にさらに心配を与えることになりますので、教育委員会としては、今後これは新聞コメントでもすでに私の方から出してありますので、今後、議会でも答弁していることですが、今後文化協会とは信頼関係の再構築に向けて密接な連携を保っていくそのように取り進めていきたいので、私の方からは一応答えさせてもらいましたが、その辺について、再度教育委員さんに意見を聞きます。ということでよろしければ、この場はこれで終わりますが、よろしいですか。

●各委員 はい。

●星野教育長 それと、栄幼稚園の関係ですが、これも新聞報道もありますけど、今回、9月議会の中で栄幼稚園の閉園、教育委員会として平成32年3月31日をもって一応、閉園ということで議会の方に説明をさせていただきました。結果として今回は2,400件以上の署名、パブリックコメントは4件でしたが、結果として今回の署名の活動は存続するかしらないかというような署名の内容になっておりましたので、議会として、今後、栄幼稚園を存続するのかしらないのか、それについては署名の関係を議会は重く受け止めまして、結果的に9月議会では結論は出ませんでした。結果として、継続審議ということになります。今後、いつの段階で、継続審議が終結するのか分かりませんが、今の段階では、継続審議という取扱いになっておりますので、よろしくお願いいたします。栄幼稚園の関係で何かご質問等ございませんか。よろしいですか。

●各委員 はい。

●星野教育長 一般質問の全般について何かご質問等ありましたら、お伺いいたします。よろしいですか。なければ、その他 1 平成 29 年第 3 回市議会定例会一般質問について終わります。

次に、その他 2 学校給食における異物混入事案の公表等に関する基準について事務局から説明お願いいたします。

阿部学務課長 その他 2 学校給食における異物混入事案の公表等に関する基準についてご説明申し上げます。趣旨につきましては、児童生徒に安心して食べてもらえる学校給食の提供をするため、美唄市の学校給食において異物混入事案があった場合における市民への公表と保護者への通知に関する基準を定めようとするものでございます。この基準につきましては、今まで異物混入した場合についての取り扱いについて、内容が変わったものではなく、今までのものについて明文化して定めようとしているものでございます。2 給食に異物が混入していた場合の市民への公表等についてでございますが、給食に異物が混入した場合、その原因と対策等について、次の区分により市民に公表を行うとともに、保護者への通知を行うものいたします。①学校への給食の配送後における異物混入への対応について、給食を作って配送してしまっ学校に届いてしまっていることっております。給食の配送後、区分の上の方ですが、給食に危険物が混入していた場合、カッコ書きですが、傷病等や健康被害が生じ、又は生じるおそれがある場合というところです。これについては、市民公表については、報道機関等へプレスリリース、市のホームページ等の掲載により行なうこととしております。保護者への通知については、学校を通じ、全保護者へ通知することとしております。給食に非危険物が混入していた場合、カッコ書きですが、健康被害が生じるおそれが無い場合、これについては、原則公表しない。保護者への通知は、原則として通知しませんが、ただし、学校と協議の上必要と認められる場合は、学校を通じ、保護者へ通知することとしております。これについては通常、保護者に通知していると理解していただければというふうに思います。保護者への通知に関わらず、混入の原因と対策等については、それが分かった段階で、対策等については学校へ通知することとしております。②です。学校への給食の配送前（調理中）における異物混入への対応です。給食の配送前ということですが、異物混入により献立の全部もしくは一部の提供を中止した場合、又は献立内容や使用食材を変更した場合、市民への公表は原則として公表しない。ただし、市民への説明が必要と判断される場合についてはこの限りではないこととしております。保護者への通知ですが、学校を通じて、全保護者へ通知する。ただし、使用の食材の変更のみの場合については、学校へは通知するが、保護者へは通知し

ないとなっております。原因を究明する場合に時間を要する場合、原因が特定された段階で再度保護者へ通知することとしております。一部提供してしまった献立の変更というのは、例えば、小さいものですが、食材の一部に使われている、キュウリが食べないといった場合はその部分を抜いたもので、献立が変わらない場合はそのまま提供するという事です。異物を除去したことにより献立の変更が無い場合については、公表しないということになっています。または保護者の方にも通知しない、原則学校にも特に通知はしていません。未然に防いだということです。

次に、異物の危険物・非危険物の目安ということで分けております。傷病等や健康被害が生じるおそれがあるもの、例えば針、食器片、ガラス、金属類、鋭利なプラスチック片、包丁等の刃、ゴム類、機械部品、乾燥剤、薬品類、衛生害虫、ネズミの糞、カビ、異常な変色や異臭等を危険物としております。非危険物については、異物自体は不快であり衛生的ではないが、健康被害が生じるおそれがないもの、髪の毛、繊維片、食品の包材の破片、その他のプラスチック片、スポンジ片、食材以外の植物の皮や殻など、羽虫等の衛生害虫以外の虫、食材に付着していた虫等ということになります。これらについては公表につきましては、①②の内容に基づいて公表したいと考えております。お手元に配布した1枚のプリントですが、昨日、給食に異物が混入してしまいました。内容は9月21日の給食におきまして、市内小学校において一人の児童の方が「パンブキンポターシュ」を食べた際に口の中に違和感を感じ、すぐ出したところ、異物が入っていた旨学校からご連絡をいただきました。異物を確認したところ、カボチャを切る際に「カボチャカッター」のポリエチレン製のまな板の一部の破片が、刃を付いたときに削げたというかそんなものが入っていたこととなります。このたびの異物混入はカボチャカッターでカボチャを裁断する際に包丁の刃がまな板の部分に接触し、まな板の一部がそがれたものが目視点検でも発見されなかったことが原因であり、深くお詫びをしております。また、まな板の一部が他にも混入した可能性がありますので、お子様の体調の異変を感じた場合には、学校、保育所又は学校給食センターの方にご連絡いただけるようということで、文書を、本日午前中に発送して、帰りに児童生徒の皆さんにおうちに持っていかれるよう発送してございます。今後におきましては、このようなことが無いように調理作業中における確認を徹底し、安全・安心な学校給食の提供を努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。という文書を出したところです。これにつきましては、この基準で申し上げますと、①の給食に危険物が混入していた場合というところの下の方の欄になりまして、原則として通知しないがただし学校と協議の上、必要と認められる場合、学校を通じ保護者へ通知する

ということで、全小中学校、保育所にも、今日通知したところでございます。異物の原因については、何かというものが確認できましたので、カボチャカッターにつきましては、新しいものと取り換えることですぐ手配してございます。パンプキンポタージュですのでポタージュはペースト状になっていまして、その中にちょっと食感を入れるのに普通のカボチャを入れるのですが、それを切るカボチャ専用のカッターの下の方の台が欠けたことになります。この基準でいいますと、非危険物のその他プラスチック片といいますか、ポリエチレン製のまな板の一部ということなので、この部分にあたるという判断をして、学校に通知したところです。以上でございます。

●星野教育長　今、給食の基準について説明がありましたが、何か質問等があればお伺いします。1点だけ確認していいですか。例えば、異物の危険性の危険物・非危険物の分け方ですが、ゴム類が危険物に入っていて、その他のプラスチック片が非危険物で、ゴム類を危険物にしている理由というのは、他のいろんな例を参考にしたと思うのですが、非危険物との関係ってどうなのですか。例えば、大きさの関係とか、いろんなことがあると思うんですが、破片といってもピンからキリまでであると思うので、スポンジ片にしても、スポンジ片って大きなスポンジ片でもいいのかって議論も出てくると思うので、このマニュアルにしていくなことになった時に、そのあたりの整理をしていった方がいいかなと思いました。それも含めて、各委員さんも聞きたいと思いますが、何かございませんか。テレビでも、今、給食の食べ残しの関係で、本州の方で問題になっているケースもありますし、異物混入の話題もマスコミにも出ていますので、このあたりは、我々もせっかく作るからにはしっかりしたマニュアルを作りたいと思いますので、是非、この機会ですので各委員さんに意見をお伺いいたします。よろしくお願いいたします。

●土肥委員　食材そのものに由来する物質、焦げとか骨とか野菜の皮とか書いてありますが、私がよく聞くのは焦げなのですけれども、どの程度の焦げが異物になるのか。多分、異物ではないと思いますが、焦げは異物だと認識してしまう子どもたちとか先生方とか多分いると思います。なかなか難しいところですが、焦げということに対して、どのような扱いにするのか、そのあたり押さえていた方が良いのかと思います。今の子どもたちは、炊飯器でご飯を炊くからおこげって知らないのですよね。文化鍋で炊いて底にうっすらとできるおこげとか、お母さんが火を止めるのを忘れてしまって焦がした焦げとかって知らないで育っているのもちょっとしたものでもすぐ異物だって思ってしまうのですよね。学校でも、それにいちいち問い合わせたら本当に大変なことになると思いますので、そこのところを押さ

えていた方がいいのではないかなと思います。

●星野教育長 意見としてで、いいですか。

●土肥委員 はい。

●星野教育長 いずれにしても、基準をつくって、更に、内規みたいなものを作ったらいいのかどうかその辺を含めてより細かに、どれかに当たるようなそんなものがあればいいのかなと思います。この辺も含めて今後内部の方でそういうものを作成らしいかと思いますので、他に、今の土肥委員の意見を含めて他の委員から何かありましたらお伺いいたします。

●森田委員 今回の異物混入の件にもなりますが、その他のプラスチック片と鋭利なプラスチック片、今回はこれが危険物と判断しなかったのは出てきたものを見て判断して、これは非危険物ということになったのですか。

●阿部学務課長 そうですね。

●森田委員 文書の下の方には他にも混入している可能性がありますってありますよね。今回、出てきたものが、鋭利ではなかったので危険物に判断しなかったと思うのですが、他にも混入していて、鋭利な形で切れていたものがあつたとしたら、危険物になりますよね。そのあたりがプラスチック片に関しては、曖昧かなと思いますが。

●阿部学務課長 ゴム類については、きちんと理解していないところもあるのですが、北海道の基準といいますか、道立学校の示している基準を基本的に同じような形で載せているところがございます。その中では、ゴム類は危険物と判断をしています。おこげについては、土肥委員のお話があつた通り、過去に麺類で焦げが入っていたことがありまして、それは業者の方に確認して、生産している途中で焦げが入る場合があるということで、その焦げ自体は麺そのものが焦げたことで確認をして、見てあまり良い思いはしないので、謝罪もいたしましたし、業者からの調査した調査票を持って保護者の方にご説明したところです。プラスチック片については、基本、危険物、このあたり、判断が難しいところもあるかもしれませんが、基本的には針、食器片、ガラス、貴金属っていうのは、作っている調理器具、調理現場のそういうものの欠損とか、そういうものを大きくは想定しております。入っていたものは、私も見て、今日触ってきましたけれども、このくらいで、口の中に入って異物だという認識はお子さんしているのですが、非常に小さいものでした。今日、調理員とも現場検証したのですが、カボチャを切って、切った後にもう 1 回、ざるで洗うそうです。水をかけて洗ったのですが、付いたものが混入してしまったということなんですね。文書中の、ほかにも入っている可能性があるかないか分か

らないという部分ですが、機械で切ったカボチャがどこの学校に配送になったか特定できないので、それで全員に通知しました。今現在、学校からは子どもさんに健康被害、他に異物があつたという報告は受けておりませんが、万が一出てきた場合、謝罪したいと思っています。

●星野教育長 よろしいですか。

●齋藤委員 今回は異物混入に対するマニュアルですけれども、食中毒に関してはまた別にマニュアルあるのでしょうか。

●阿部学務課長 直接、食中毒ということになるかどうか分らないですが、保健所の基準になっていて、作ったものの温度管理とか配送までの時間が決められていて、食するまでの時間が非常に細かく決められているのと、運ぶ時の動線とか決っています。食中毒警報とかも入ってきますけど、それも給食センターも分かっていますし、そのマニュアルに従って、範囲内の時間で作って、冷たいものは冷たいまま、そういう基準は守って食中毒が起きないように、配送業者もそうですし、給食センターもそうですけれども、注意を払って、基準内におさまるように処理しています。ただ、食中毒のマニュアルというのは…。

●齋藤委員 異物混入に関しても、結局、起きたことに対する対応じゃないですか。食中毒もそうやって対応していても起きないとも限らない、仮にニュースとかでもいろいろありますけれども、毒でも混入されたとか、そういったことが無い可能性もない訳でもないですから、万が一起きたときのためのマニュアルっていうものを作っておくといいのかなと思います。以上です。

●星野教育長 他に意見ございませんか。よろしいですか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、その他2 学校給食における異物混入事案の公表等に関する基準について終わります。

本日の議事については、すべて終了しました。他に何かありましたらお伺いいたします。何かありますか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、これをもちまして、平成29年第14回美唄市教育委員会議を閉会いたします。お疲れさまでした。

16:50 終了

以上会議の顛末を記載し、その相違無いことを証するためここに署名する。

署名委員

高橋 泰 淨

【別紙 1】

教 育 長 報 告

自 平成 29 年 8 月 21 日

至 平成 29 年 9 月 21 日

区 分	会 議 等	
8月21日	第 13 回教育委員会議	教育委員室
22日	北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会（～23 日）	稚内総合文化センター（稚内市）
27日	安田侃講演会	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄
30日	感謝状贈呈（栄建設（株））	市長応接室
31日	中央小学校コミュニティ・スクール実行委員会	中央小学校
9月 1日	南美唄中学校学校祭	南美唄中学校
1日	「学校給食用玉ねぎの贈呈」（JA びばい）	教育長室
1日	第 6 回指定管理者選定委員会	市長会議室
3日	2017 北海道スカイスポーツフェア in 美唄	美唄市農道空港
5日	第 3 回市議会定例会（～25 日）	議場ほか
10日	第 17 回ピパオイカップ車いすバスケットボール選手権大会	総合体育館
11日	臨時教育委員会協議会	教育長室
16日	美唄青年会議所創立 55 周年記念式典	ホテルスエヒロ
21日	秋の全国交通安全運動一斉街頭啓発	美唄警察署前

上記のとおり報告する。

平成 29 年 9 月 22 日

美唄市教育委員会

教育長 星 野 恒 徳

【別紙2】

8 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
21	月	キッズ・アスリートスクール⑧	16:30	総合体育館	市民
22	火	蔵書点検のため図書館休館(～27日)		図書館	
23	水	第5回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
		安田侃ブロンズ展「時をつなぐ」(～10/6)	10:00	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄	市民
24	木				
25	金				
26	土	第1回美唄キッズ漢字検定	9:15	市民会館大会議室	市民
27	日	安田侃講演会「時をつなぐ」	14:00	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄	市民
28	月				
29	火				
30	水				
31	木	3歳児ブックスタート	13:00	保健センター	市民

9 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
1	金	学校祭(南美唄中)		南美唄中学校	
		読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
2	土	学校祭(峰延中)		峰延中学校	
		開設25周年記念関連事業(ナイトミュージアムほか)(～3日)	17:00	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄	市民
3	日				
4	月				
5	火				
6	水				
7	木	学校祭(東中)		東中学校	
		ブックスタート(7か月児)	13:00	保健センター	市民
8	金	学校祭(美唄中・東中)		美唄・東中学校	
9	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	市民
		子どものための美術鑑賞「アルテでつくろう! きみも彫刻家」(～10日)	13:30	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄	市民
10	日				
11	月	キッズ・アスリートスクール⑨	16:30	総合体育館	市民
12	火				
13	水	第6回定例校長・園長会議	9:30	市長会議室	関係者
14	木				
15	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
16	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	市民
17	日	なつかしの映画上映会	14:00	郷土史料館	市民
18	月				
19	火				
20	水	第6回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
21	木	3歳児ブックスタート	13:00	保健センター	市民
		なつかしの映画上映会	14:00	郷土史料館	市民

10 月 行 事 予 定

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	所 管
1	日	第38回道写協美唄支部写真展（～11日）	9:00	郷土史料館	生涯学習課
		第65回美唄市民文化祭謡曲大会	13:30	総合福祉センター	生涯学習課
2	月				
3	火				
4	水				
5	木	ブックスタート（7か月児）	13:00	保健センター	図書館
6	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	図書館
7	土	安田侃のまなざし展（～16日）	9:00	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄	生涯学習課
		市民体育祭（～9日）		各体育施設	スポーツ振興課
		第65回美唄市民文化祭文芸大会	10:00	市民会館	生涯学習課
8	日				
9	月				
10	火				
11	水				
12	木				
13	金				
14	土	小学校学芸会・学習発表会		各学校	
		第65回美唄市民文化祭総合展示（～15日）	9:00	総合体育館	生涯学習課
		おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
15	日	第65回美唄市民文化祭市民茶会	10:00	総合体育館	生涯学習課
		なつかしの映画上映会	14:00	郷土史料館	生涯学習課
16	月				
17	火	第7回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	指導室
18	水	第7回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	市長会議室	指導室
19	木	3歳児ブックスタート	13:00	保健センター	図書館
		なつかしの映画上映会	14:00	郷土史料館	生涯学習課
20	金	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	図書館
21	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
22	日				
23	月	キッズ・アスリートスクール⑪	16:30	中央小学校	生涯学習課
24	火	第2回男女共同参画in美唄大会	12:45	総合福祉センター	生涯学習課
		第2回青少年指導員専任指導員会議	15:30	市長会議室	生涯学習課
25	水				
26	木				
27	金	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
28	土				
29	日	秋の読書週間特別展「地図で見る当時の美唄」（～11/12）	10:00	図書館ロビー	図書館
30	月	キッズ・アスリートスクール⑫	16:30	中央小学校	生涯学習課
31	火				

【生涯学習課】

街頭指導 5日（木） 12日（木） 26日（木）

街頭指導（中高一斉） 19日（木）

列車添乗 18日（水）

【サテライト・キャンパス推進室】

協働事業～尚栄高校での出前事業（10/5）

講座～まちづくりを担う人材養成講座2講座4回

市民教養講座1講座2回（10/3）

市民ふれあい講座 10/14（木）

【安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄】

オペラプッチーニ「蝶々夫人」のゆうべinアルテピアッツァ美唄

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

山崎 一広 議員
教育委員会生涯学習課

件 名 4 指定管理について

中項目 (1) 市民会館の指定管理について

質問内容

市民会館の指定管理について、次の 4 点について質問します。

1 点目は、市民会館の指定管理者制度を導入した本来の目的について、伺います。

2 点目は、指定管理者選定委員会の持つ意味について、伺います。

3 点目は、今回の原因は何であると考えているのか、伺います。

4 点目は、8 月 2 日のテレビ報道についてどう受け止めているのか、伺います。

答弁内容

（市民会館の指定管理者について）であります、

はじめに、制度の目的についてであります、官から民へという一連の規制緩和の流れにそって地方自治法が改正され指定管理者制度が創設されたところであります。

本制度の導入によって公の施設に民間ノウハウを広く活用することにより、住民サービスの向上と経費の縮減が図られることが目的とされております。

美唄市民会館につきましては、平成 18 年度に公募した際、美唄市文化協会 1 社の応募があり、指定管理者選定委員会で指定管理候

補者として選定され、議会の指定議決を受け平成 19 年度から今日まで指定管理者として市民会館の管理運営をして頂いているところであります。

次に指定管理者選定委員会の権限についてでありますが、指定管理者の指定手続き条例においては、どこの自治体の条例においても指定管理者選定委員会の職務権限を明記しているものはございません。当該職務範囲につきましては、各自治体が策定する指定管理者制度の運用指針で範囲を明記しているところであり、本市におきましては、運用指針の中で選定業務の範囲を明記するとともに、モニタリングマニュアルにおいて、指定管理者の業務について業務の監視機能を持たせている委員会であると認識しています。

次に、今回の要因についてでありますが、美唄市文化協会が累積欠損金を生じた平成 25 年度以降、美唄市文化協会の指定管理業務について、業務改善事項を含め、教育委員会の指揮監督が十分に行われていないこと、また美唄市文化協会においても、外部発注業務について事務の経験不足等から十分な事務執行が行われていなかったことが、大きな要因と考えているところであります。

次に 8 月 2 日の北海道テレビ放送の報道内容についてであります。私は、指定管理者の有する一般論としての裁量権については理解を示しているところでありますが、この指定管理者の裁量権については、合理的な形の中で発揮されるべきと考えております。しかしながら、報道された内容については、市民の皆さんに、私の考えが十分伝わらない内容となっていたことに対して遺憾に思うところであります。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

山崎 一広 議員
教育委員会生涯学習課

件 名 4 指定管理について

中項目 (1) 市民会館の指定管理について

質問内容

市民会館に対する今後の考え方について、伺います。

答弁内容

（市民会館に対する今後の考え方について）であります、
この度、指定管理者選定委員会から、今回の外部委託業務の内容
について、教育委員会に報告書の提出がありましたので、教育委員
会としましては、この報告書の内容を整理したうえで、教育委員の
意見も聞きながら教育委員会としての考えを纏めてまいりたいと考
えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会生涯学習課

件 名 2 指定管理について

中項目 (2) 市民会館・公民館の指定管理について

質問内容

1 点目に、マスコミ等の報道についてですが、いつどのような内容で報道されたのか把握されているのか、伺います。

2 点目に、報道に対しての調査等についてですが、報道内容が事実かどうかの調査をされているのか。事実と異なる報道であった場合、報道機関には適正な対応を求めるべきだと思うが、このたびの報道に関して、何か対応した事実があれば教えていただきたい。

3 点目に、市民への説明等対応についてですが、今回の一連の報道により、市民に混乱を招いていることから、市民説明が必要ではないのか、伺います。

答弁内容

(マスコミ等の報道について) であります。

新聞社やテレビ局については、記事の掲載前に取材申し込みがあり、相手方の質問に対してコメントしてきたところですが、取材の内容が何時、どのような形で記事になるのか、報道されるのかは、マスコミの判断であり、取材を受けた側は分からないところであります。

私が取材に応じていない中で、月刊誌に記載された内容については

読ませていただきましたが、どのような形で取材し、どのような事実確認を行って掲載したのかは承知していないところであります。なお、掲載した新聞社については2社で、1社は8回、もう1社は1回であったと確認しております。

次に8月2日のテレビ報道内容についてであります。私は、これまで議会や新聞報道において、一貫して、市外業者であっても合理的な理由があれば、指定管理者の裁量権の中で発注・契約は良いが、疲弊する地元経済を活性化させるため、地元にある複数業者にも参入する機会を与えていただくよう、指定管理者に願う旨の発言・コメントをしてきたところであります。先日のテレビ報道では、テレビを見た方は、私が、市内の特定業者に誘導していると受け取られる内容となっており、大変遺憾に思うところであります。

この報道に対する調査や対応についてであります。テレビ局に対しては、新たな取材の要請がないことから、先の放送について、どのような意図・目的で内容を編成したのかは確認していないところであります。

報道の中での文書についてですが、地方自治法の抜粋文書は教育委員会が文化協会に提示したものです。誰がテレビ局に渡したか、それ以外の文書は何処から出て、誰が渡したのかをテレビ局に確認しても、ニュースソースを明らかにしていただけないものと考えており、新聞についても同様であると判断しております。

次に、市民説明についてであります。先般、指定管理者選定委員会から教育委員会に対して、市民会館の外部委託に関する報告書が提出されたところであります。

市民の皆様には、市民会館の管理運営について、大変ご心配をおかけしたものと受け止めており、教育委員会といたしましては、その報告書の内容を整理し、教育委員の意見も聞きながら、教育委員会としての考えを取り纏めた上で、市民への説明責任を果たしてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会生涯学習課

件 名 2 指定管理について

中項目 (2) 市民会館・公民館の指定管理について

質問内容

1 点目は、教育長が答弁した発注に関して「合理的な理由」とは具体的に何を指すのか伺う。

2 点目は、教育委員会は文化協会に地方自治法の抜粋文書を渡し、その時、指定取消しの説明をした内容の報道となっているが、事実関係を伺う。

答弁内容

（合理的な理由について）であります、

先程、ご答弁させていただきました「合理的な理由」については具体的に明文化されているものはないところでありますが、指定管理者は施設管理者に代わって公の施設を管理代行するという観点から、その発注に当たっては、市内では出来ないこと、または技術的分野について優れていること等について、予め施設管理者と協議した中で判断し決定することを指しているところであり、これらの手続きが円滑な管理運営に繋がるものと考えております。

次に、美唄市文化協会に地方自治法の抜粋文書を渡した件ですが、その際、私が説明したことは、議会議論を踏まえ理事会におい

て、再度整理しないと、今後の議会議論にもよるが、地方自治法で規定している指定管理者の指定取消しの議論となれば、そうなることもあり得るが、いずれにしても、今後は議会議論に委ねられる旨説明したうえ、地方自治法の条文解釈について説明した文書をお渡ししたところであります。しかしながら、放映内容は、指定を取消す旨説明したような内容で放映されたところであります。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再々質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会生涯学習課

件 名 2 指定管理について

中項目 (2) 市民会館・公民館の指定管理について

質問内容

指定管理の「合理的な理由」に関して、指定管理をしている施設も市の施設であるから、市民サービスの充実は、合理的な理由に入るのではないかと考えるが、教育長としての考えを伺う。

答弁内容

（合理的な理由の考え方について ）であります、
合理的な理由の中には、市民サービスの充実についても入るものと考えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 教員の働き方改革について

質問内容

教員の長時間労働が深刻化している。

文部科学省の平成 28 年公立小中学校教員の勤務実態の調査では、過労死の目安とされる付き 80 時間超の残業を行っている教員は、小学校 33.5%、中学校 57.7%にもなった。

教員は授業のみならず、生活指導や学校行事、通学路での見守り等、あらゆる側面で子供たちの教育を行っている。

教員の多忙の要因は、授業時間の増加があり、更に小学校での英語、道徳の教科化、ほぼ全員が担っている部活、中には未経験競技の顧問となり、ルールや練習方法の勉強に時間をとられる教員が多い。

これらの根本的解決は業務を減らすことと、教員を増やし、部活のあり方を検討することが必要である。

次の点を伺う。

- ①教員の働き方改革について、どのような内容が考えられるのか。
- ②教員の夏季休暇、札幌市教育委員会が今夏から導入、95%、299 校が実施された。なぜ、道教育委員会は実施しないのか。差別ではないか。

・本市の教職員の夏季休暇の取得状況についても併せて伺う。

答弁内容

(教員の働き方改革について) でありますが、

①文部科学省は、本年 8 月 29 日付で、中央教育審議会初等中等教育分科会と学校における働き方改革特別部会が取りまとめた「学校における働き方改革に係る緊急提言」を各都道府県教育委員会及び各指定都市教育委員会あてに通知しました。

この緊急提言では、政府全体で働き方改革に取り組んでいるところであるが、「学校における働き方改革」を進めるに当たっても、教職員一人一人の問題にとどめることは決してあってはならず、国や地方公共団体、さらには家庭、地域等を含めた全ての関係者がそれぞれの課題意識に基づいて、学校種による勤務態様の違いや毎日児童生徒と向き合う教員という仕事の特性も考慮しつつ、その解決に向けて、今回の働き方改革の目指す理念を共有しながら、取組を直ちに実行しなければならないとしております。

具体的には、ICT やタイムカードによる勤務時間の管理、統合型校務支援システムの導入促進、コミュニティ・スクールや地域学校共同活動等を通じた学校教育の質の向上、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置促進、教員 1 人あたり担当授業時数の軽減や専科教員・生徒指導担当教員の充実、部活動指導員の配置促進や部活動の運営に係る指針の作成、学習プリント印刷や授業準備などの事務作業をサポートするスタッフの配置促進などが提言されているところであります。この提言において、校長や服務監督権者である教育委員会は、教職員の意識改革を図るためにも取り組みを一層進めるとともに、給与支払者である教育委員会並びに国は、積極的指導助言及び支援すべきであるとしております。

②次に、「夏季休校日」についてでありますが、

札幌市教育委員会では、政令指定都市の先進事例を参考に、今年度から市内小中学校 315 校を対象に、お盆時期の 8 月 10 日、14 日、

15 日の 3 日間の中から、各学校実情に応じて日数を決めて、学校を休業日とする「夏季休校日」を導入したと報道等により承知しているところです。

この札幌市教育委員会の取組みは、教員の長時間労働が全国的な問題となる中、休暇取得の促進により教員の負担軽減を図ることを目的としております。休暇の取得方法については、年次有給休暇や夏季休暇など既存の休暇制度を活用して取得しており、市内小中学校 315 校のうち、ほとんどの学校が 1 日以上の「夏季休校日」を実施したと伺っております。

なお、北海道教育委員会からは平成 29 年 7 月 6 日付で、「学校職員の年次有給休暇等の計画的な使用の促進について」の通知があり、この中で「年次有給休暇の確実な取得」を挙げており、長期休業期間中においては、夏季休暇や年次有給休暇の取得を奨励し、各職員がリフレッシュできるよう、土日や祝日に年次有給休暇を組み合わせるなど、可能な限り連続した休暇を取得できるよう配慮することなど、市町村教育委員会は学校職員に適切な指導をするよう通知があったことから、教育委員会では、各小中学校長に対し、学校職員の年次有給休暇等の計画的な使用の促進について通知したところであります。

次に、本市教職員の平成 28 年度の夏季休暇の取得状況についてであります。教職員 145 人のうち夏季休暇を取得した教職員は、139 人で

95.9%、取得日数については、平均 2.8 日となっております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 教員の働き方改革について

質問内容

①通勤時間の管理に「タイムカード」導入の件、文部科学省では、4 分の 1 強しか進んでいません。

管理職の点呼や目視での確認、更に何も確認していないが、1 割強もあります。市の実態を伺います。

②札幌市は「夏季休暇」でなし、学校を休業日とする「夏季休校日」の実態を知りました。

この「夏季休校日」、市の実施見通しについて伺います。

③道内での教育志願者が過去 10 年間で最も少なく、教員の多忙化が嫌われたのかもしれませんが。

優秀な人材が集まるよう、教育委員会として要因をどのように分析しているかを伺います。

答弁内容

（市内小中学校への「タイムカード」導入について）であります
が、

①本市を含め、道教委に確認した結果、道内で導入している市町村はないところであります。

しかしながら、教職員の勤務時間をしっかりと把握し、教職員の負

担に繋がらないよう努めることは必要でありますことから、今後におきましては、この度、中教審特別部会が纏めた「学校における働き方改革に係る緊急提言」の内容に基づき、校長及び教育委員会は、教職員の勤務時間を意識した学校運営や持続可能な勤務環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

②次に、「夏季休校日」についてであります。各学校の実情や教職員個々の休暇取得の計画や予定などもあることから、実施予定はありませんが、今後とも、各職員がリフレッシュできるよう、土日や祝日に年次有給休暇を組み合わせるなど、可能な限り連続した休暇を取得できるよう配慮するよう学校長を通じて適切な指導を行ってまいりたいと考えております。

③次に、教員志願者の減少についてであります。平成 30 年度北海道・札幌市公立学校教員採用試験の志願者数が合計 5,004 人で、今年度採用の志願者を 272 人下回り、平成 25 年度以来 5 年連続で減少し、過去最低を更新したと報道等で承知しているところであります。

児童生徒の学びを培うためには、優秀な人材の確保は重要であるものと考えております。

減少の分析ですが、文部科学省の分析によりますと、民間企業への就職環境が好調なため教員志望者が減っていると分析しているところですが、私としましては、これに加え、複雑化かつ多様化する社会情勢の中で勤務実態や生徒指導の難しさなど、教員を取り巻く労働環境の厳しさなどが、今の若者に敬遠されているのではと推測するところであります。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員
教育委員会生涯学習課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 放課後児童施設について

質問内容

美唄市の子どもの出生数が減少しているといわれているが、市内の放課後児童施設については、平成 29 年 4 月から中央小学校区で定員増となり、利用者が増加傾向と聞いている。

放課後児童施設は、保育所や幼稚園、小中学校などに関連して、子供の成長を支え、家庭の手助けをする重要な施設であると考えますが、まずその現状確認として、市内施設の定員と登録者数、うち障がい児数、見守りをする支援員など担当職員数について伺いたい。

また、それぞれの施設運営の問題点などについても伺いたい。

答弁内容

（放課後児童施設の現状と課題について ）であります。

定員、利用者、指導員等職員数について、平成 29 年 4 月 1 日現在の数で申しますと、中央小学校区放課後児童施設は、定員 80 名に対し、利用者数 88 名、うち障がい児数 4 名、職員数は、支援員が 1 名と補助員が 7 名となっております。

東小学校区放課後児童施設は、定員 60 名に対し、利用者数 62 名、うち障がい児数 2 名で、職員数は、支援員が 1 名と補助員が 5 名となっております。

南美唄小学校区放課後児童施設は、定員 30 名に対し、利用者数 12 名、うち障がい児数 1 名で、職員数は、支援員が 1 名と補助員が 1 名となっております。

峰延小学校区放課後児童施設は、定員 30 名に対し、利用者数 3 名、職員数は、支援員が 1 名と補助員が 1 名となっており、障がい児の登録はありません。

茶志内小学校区放課後児童施設は、定員 15 名に対し、利用者数 12 名、職員数は、支援員が 1 名と補助員が 1 名となっており、障がい児の登録はありません。

昨年からの利用傾向としては、特に母町地区で利用児童が増加しており、その要因としては、保護者の働く環境の多様化に伴い、共働き世帯が増加しているものと考えております。

次に、施設運営についてであります。国の指針では、登録されている子供が 40 人までについて 2 人以上の職員を配置することとなっております。

市内 5 か所の施設では、指針に沿った職員配置ができておりますが、見守り等、特に支援を必要とする児童が登録している施設もあり、安心・安全な施設運営を行う観点から、代替職員の加配が必要であると考えているところであります。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

松山 教宗 議員
教育委員会生涯学習課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 放課後児童施設について

質問内容

代替職員が不足しているとのことだが、1, 2 年程度の問題か、将来に渡っての問題なのか、施設を利用する子どものため、利用する家庭の支援のため、体制の整備だけではなく、教育委員会と各施設の連携強化が必要と思うが、どのような考えを持っているか伺いたい。

答弁内容

(職員体制について) であります、

代替職員については、ハローワークでの求人紹介や、新聞記事などでも職員募集情報を掲載してまいりましたが、現在のところ職員の補充には至っておりませんので、引き続き募集を継続し、不足職員の確保に努めてまいります。

また、各施設の職員は、それぞれの子どもの個性に合わせて見守りや支援を行っているところですが、子どもの生活環境の多様化に伴い、各施設の職員の見守る等の時間が増えている傾向にあります。

このため、教育委員会では、各種団体が開催する職員研修への参加を促し、職員や支援員の資質向上を図るとともに、教育委員会職

員による施設訪問等を定期的に行うなど、施設職員と、より一層連携を密にし、安心安全な施設運営に努めてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

吉岡 文子 議員
教育委員会学務課

件 名 3 子どもの貧困について

中項目 (2) 子ども食堂について

質問内容

現在行われている子ども食堂の実態について伺う。

答弁内容

（子ども食堂について ）であります、
子ども食堂は、貧困家庭など、何らか理由により、家庭での食事が十分に摂れない子供たちに地域やボランティアの方々が、無料や安価で提供する取組で全国的にスタートしたところですが、近年では、子どもが一人でも安心して来ることができる「団らん」の場として利用されているところであります。

本年度の全国学力・学習状況調査に合わせて実施している児童生徒の生活状況を把握する調査では、「朝食を毎日食べているか」の問いに対して、本市の小学生は 90.9%、中学生では 96.7%が食べていると回答しているところでありますが、このことは、心も体も伸び盛りの子どもたちが、本市では、小学生で 70 名、中学生で 15 名が、毎日の朝ご飯を食べないで学校に来ていることを示しているところでもあります。

本市では、昨年度より、美唄市農協の全面協力を得て、試行的に、美唄中学校の生徒を対象に、中央小学校区の放課後児童施設を会場

として、朝 7 時より事前に希望した生徒に対して、農協女性部に用意していただいた朝食を 100 円で提供しているところであり、当初 5、6 人であった参加者が、早起きして朝食をとることにより生活リズムを整えることが出来ること等から、現在では、毎回 40 名を超える子どもたちが利用しているところであります。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 文子 議員
教育委員会学務課

件 名 3 子どもの貧困について

中項目 (2) 子ども食堂について

質問内容

東地区においても子ども食堂を実施できないか伺う。

答弁内容

（東地区でのこども食堂開設についての考え方について）であり
ますが、

現在、食材の調達から調理・食器調達・会場準備まで、美唄市農協
の全面協力を受けて中央小学校区の放課後児童施設で実施している
ところです。

これまで、何度か、美唄市農協に、東地区での試行的実施について
相談させていただいたところですが、その際、担当者の方からは、
会場として考えらえる東小学校区放課後児童施設までのボランティア
の方々の移動手段の確保やスペース等の課題があるが、次年度に
向けて、どのような方法であれば実施可能であるか、教育委員会と
も相談していきたいとお話も伺っておりますことから、今後、こ
れら課題について整理し、試行実施していただけるよう、さらに協
議してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について
 (支援)
中項目 (1) 特別新教育の充実について

質問内容

- ①通級、特別支援教育の充実について
- ②指導体制について
- ③生徒の進学状況について

答弁内容

(通級学級や特別支援学級に在籍している人数について) であり
ますが、

① 本市における普通学級に在籍し、言葉の教室に通級している児童生徒数の過去 10 年間の推移につきましては、平成 18 年度では 12 名でありましたが、平成 28 年度は 32 名、本年度は 28 名となっており、2 倍強になっているところであります。

次に、特別支援学級に在籍している児童生徒数の推移についてであります。平成 18 年度は、30 名でありましたが、平成 28 年度は、60 名、本年度は、55 名となっており、ほぼ倍増となっております。

また、特別支援学級に在籍している児童生徒数の割合は、平成 18 年度には、1.4 パーセントでありましたが、平成 28 年度には、4.6 パーセントの 3 倍強の増加となっております。

本市の子供の人数が年々減少していく中、特別支援教育を必要とする児童生徒数が増加している背景につきましては、平成19年4月に、特別支援教育が学校教育法に位置付けられ、すべての学校において、幼児児童生徒、一人一人の教育的ニーズを把握し、障がいのある子供たちの自立や社会参加に向けて適切な指導及び必要な支援を行うこと等が制度化されたことが要因であると考えているところです。

②次に、特別支援学級の指導体制について ありますが、はじめに、本年度の特別支援学級の設置状況を申し上げますと、全市で18学級の特別支援学級が設置されており、特別支援学級の教員配置は25名、特別支援教育支援員については、22名の配置になっております。

次に、普通学級の教員が特別支援学級の授業を担当することについてありますが、作品を表現したり鑑賞の活動を通して多くの友達と一緒に感性を働かせ、豊かな情操を育てる音楽や図工等の授業など、普通学級の児童生徒と一緒に学習することが教育課程上、効果があると判断される場合は、普通学級の担任が主になって授業を進め、特別支援学級の担任や特別支援教育支援員が子どもの傍らで支援しているところであります。

③次に、特別支援学級に在籍していた生徒の進路状況ですが、過去3年間に渡って申し上げますと、平成26年度卒業生は、3名が市内、5名が市外の学校に進学しております。平成27年度と平成28年度の卒業生は、いずれの年度も1名が市内、5名が市外の学校へ進学しております。直近3年間では、特別支援学級に在籍していた20名の生徒は、市内の学校に5名、市外の学校に15名と振り分けられ、全員が進学しているところであります。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (1) 特別新教育の充実について

質問内容

- ①学校内に通級指導教室の設置を行い、現在より増やすべきと考えますが、このことについては、どのように考えているのか。
- ②普通学級の教員についても、発達障がいについての理解や知識を修得する機会が必要かと思いますが、このことについては、どのように考えているのか。
- ③生徒の進学先をみますと市外が多く、将来的に、市内の高等学校でも受入ができるよう、市としても働きかけを行うべきかと思いますが教育長のお考えを伺います。

答弁内容

（発達障害に対応した通級指導教室の設置について ）であります
が、

- ①本市の通級指導教室であります言葉の教室は、中央小学校の教員 2 名が、中央小学校内の専用の教室の中で相談・指導、運営にあたっておりますが、言語に障害がある児童だけでなくコミュニケーションや思考機能に困り感のある児童も対象として週 1 回、あるいは隔週で午後から通級して、個々の課題に合った支援を行っているところであります。

教育委員会といたしましては、今後とも、障がいを持つ子供たちが、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服できるよう、現在の通級指導教室をさらに充実するとともに、通級指導教室の在り方について他市町の事例を参考に調査してまいります。

②次に、教員の発達障がいについての理解や知識を修得する機会の必要性についてであります。文部科学省の委託事業である「発達障がい支援モデル事業」において、平成26年度より1園4校がモデル校として指定され、この事業において、発達障がいの特性に応じた指導の在り方に関する校内研修を進める際に参考となるよう研修の内容や方法を例示している「校内研修プログラム」を作成しております。

平成28年度には、「校内研修プログラム」をより具体化した「通常の学級における特別支援教育の視点を生かした実践事例集」を作成し、モデル事業合同研修会には、152名の美唄市の教職員が参加したところであります。

平成28年度には、道教委推進事業として、これまでの成果を普及推進するとともに発達障がいのある子どもやその保護者への早期からの教育相談や支援体制の充実を積極的に推進する地域に本市が指定され、さらに3校が推進校として指定されました。

本年度も発達障がい支援成果普及事業の指定地域として、特別支援教育支援員研修会や特別支援教育コーディネーター研修会を開催し、教職員の専門性を高め、特別支援教育の充実に資するとともに、発達障害等の理解や障害のある児童生徒のニーズに合った教育を進めているところであります。教育委員会といたしましては、今後とも教職員の発達障害に対する知識が深まるよう、研修機会の確保に努めてまいりたいと考えております。

③次に、特別支援教育を必要とする生徒の受け入れについてありますが、障がいの種類や程度によっては、今後の就職を視野に入れて高等養護学校を選択する生徒や集団になじめないこと等から通信

制の高校を選択し、市外へ進学されている方もおられますが、市内の高校に入学された生徒については、入学後、必要な支援を行っていると同っているところであります。

国の動向では、文部科学省が平成 26 年度から平成 28 年度まで「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育モデル事業」を実施し、高校における通級指導などの具体化に向けた研究を進めてきており、平成 30 年度に高等学校における通級による指導の導入に向けた制度の運用の開始することとしております。

教育委員会といたしましては、文部科学省が必要な教員定数の加配措置や教員の専門性の向上など制度化に当たっての充実方策を示しておりますので、これらの動向や市内高校の意向を踏まえ、北海道教育委員会の意見も聞きながら対応してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (2) 小中学校教育について

質問内容

①落ち着いた環境下での学習について

- ア 各学校で工夫実践している内容について
- イ 家庭教育との連携について
- ウ 市内 9 校の実情の把握について

答弁内容

(落ち着いた環境下での学習について) ですが、

①児童生徒にとって望ましい学級集団をつくることから、落ち着いて学習できる環境において最も大切でありますことから、各学校の担任は、4 月当初に、学級目標、担任の経営方針、児童生徒の学習や生活の状況、家庭の状況等を踏まえた教科指導、生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携等について学級経営計画を作成するとともに、生徒指導の先生を中心に学級だけでなく、「チーム学校」を目標に、全体の教師と保護者とも深い連携を図りながら、全体の中で落ち着いた学習環境づくりに取り組んでいるところであります。

児童生徒に対しましては、席替えや班決めを教師が決めるのではなく、教師がクラスの課題や雰囲気把握した中で、児童生徒の意

見や意思を尊重するなど、児童生徒の側に立った学級づくりを進めているとともに、一日一回の声掛けや悩み事、授業などの相談を通じて、担任と児童生徒との間に信頼関係を醸成させるなど、教師と児童生徒との連携の中で、伸びやかな学習環境を工夫しているところであります。

②次に、家庭教育との連携についてであります。学校は保護者や地域の人々に対して、学校経営方針、教育目標や今日的な教育活動の現状について、学校だよりを始めとした各種のたよりのほか、参観日や家庭訪問などの保護者との懇談、PTA 行事や運動会・学芸会等での触れ合い、保護者アンケート等を通じて、家庭や地域との連携を図っているところであります。

今後におきましては、現在、各学校において本年度中に設置することとしているコミュニティースクールなどの組織を活用し、より一層、家庭と地域の連携を深めてまいりたいと考えております。

③次に、市内 9 校の状況や実情の把握についてであります。教育委員会では、毎月開催される校長会議や教頭会議、各学校の生徒指導の生徒指導教師で構成される生徒指導交流会での情報交換や年 2 回の教育委員による学校訪問、教育委員会指導室を主とした随時訪問、さらには空知教育局の訪問や生徒指導問題行動調査等の文部科学省調査や、いじめ把握調査や中 1 ギャップ把握アンケートに加え、青少年の指導に関する機関・団体と連携し教育現場の実情把握に努めているところであります。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (2) 小中学校教育について

質問内容

学級内での落ち着いた環境が保てない場合、教育委員会としての指導と対応については、どう考えているのか、また、改善へ向けた取り組みについて、どのような事を行おうと考えているのか。

答弁内容

（教室において落ち着いた授業ができない場合の対応について）
であります、

落ち着いた授業を進めていくためには、教師が、児童生徒の自己存在感、共感的人間関係を大切にするとともに、保護者の気持ちや願いをしっかりと受け止め、児童生徒の学習面、行動面、対人関係で気になっていることなどを把握し、保護者に担任の気持ちが確実に伝わるよう、学校と家庭の深い連携が必要と考えております。

教育委員会では、平成 26 年度より美唄市教職員専門研修として、児童生徒がどのような困りごとを抱えているのか、学校がしっかりと受け止め、共感的な立場から子どもたちの主体性や協働性を活かした「あたたかな学級環境づくり」を目的に、小中学校の長期休業中を利用し、大学教授を招聘しカウンセリング研修会を行っているところであります。今年度からは、児童生徒に寄り添い、メン

タル面のケア・サポートするため、校長等、管理職を含め、各学校の教師で構成されたカウンセリング検討委員会を設け、児童生徒の抱える課題や実態に即した指導に努めているところでありますが、教育委員会といたしましては、児童生徒の学びの場が落ち着いた環境になるよう、「チーム学校」の中で対応するよう指導してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (3) 栄幼稚園の閉園案について

質問内容

- ①閉園案についての保護者・地域への説明等経過について
- ②入園児の状況について
- ③美唄市幼稚園教育振興計画について
- ④発達障がいをもつ幼児の受け入れ体制について

答弁内容

(栄幼稚園の閉園に係る保護者や地域の方々への説明について)
であります、

①6月23日、保護者説明会を開催し、入園予定者の保護者を含め、25名のご参加をいただき、2回目となる7月24日の保護者説明会には、平成26年度から平成28年度に卒園した保護者の方々にもご案内し、保護者の方22名の方と卒園した保護者の方1名のご参加をいただいたところであります。

保護者の方々のご意見といたしましては、今後見込まれる少子化により閉園するというのは、やむを得ないが、在園児については卒園させてほしいこと、転園した場合の保育料の差額についてはどのようなになるのか、募集停止をした場合でも、1年だけ入って移る入園は認められるか、閉園後の空スペースの活用方法は決まっているの

かなどのご質問をいただいところす。

また、地域の方々への説明につきましては、自治組織代表者会議やまちづくり地区懇談会において、栄幼稚園の閉園に係る説明をしてきたところでありすが、参加者の方からは、自然の中での学びの大切さから、栄幼稚園を存続していただきたいというご意見があったところす。

教育委員会といたしましては、これら保護者や地域の方々の意見に対して、平成 20 年以降、定員割れが続いており、また、出生数の減少傾向など少子化が進んでおり、今後さらに少子化の傾向が進み、入園者数が減少することが予想されるとともに、少人数の中で幼稚園教育要領に定める豊かな幼児教育を実践することは難しいこと、また、園児の安全性において、園舎がアルテピアッツァ美唄と同じ建物の中にあることから、不審者の対策など園児の安全性に課題があることに加え、今後、道道美唄富良野線が開通することにより、さらに安全性の確保が難しいこと、また、周辺はクマの出没地域であり、直近 3 年間における目撃頭数は、平成 27 年度では 11 頭、平成 28 年度は 9 頭、平成 29 年度は 8 月末現在で 15 頭となっておりますことから、教育委員会では、園児の生命を守らなければならないという重大な責務があることを説明したうえで、閉園後については、公立幼稚園の役割を認定こども園ひまわりに移行し、市内私立幼稚園を受け皿とした中で、平成 32 年 3 月 31 日の閉園についてご理解を求めたところでありすが。

②次に、栄幼稚園の園児数についてでありすが、過去 5 年間の 10 月末の園児数、平成 20 年は

35 人、平成 21 年は 31 人、平成 22 年は 34 人、平成 23 年は 25 人、平成 24 年は 22 人、平成 25 年は 25 人、平成 26 年は 31 人、平成 27 年は 31 人、平成 28 年は 25 人となっております。

③次に、公立幼稚園としての役割の移行についてでありすが、これまで市立幼稚園では、幼稚園、家庭、地域社会の 3 者が教育機能を発揮し、総合的な幼児教育を提供するため、幼児教育の場として

の機能に加え、地域住民や子育てグループといった子育てに携わる身近な人々と連携しながら、地域の未就園児を含む保護者の教育力向上を支援する幼児期の教育のセンター的な機能を担うことを目指してまいりました。

近年、社会情勢が大きく変化し、保護者の方々の働く環境も多様化し、年々、保育所や認定こども園のニーズが高まっていることから、教育委員会といたしましては、今後、私立幼稚園と連携を図るとともに、公立幼稚園の機能を認定こども園ひまわりに引き継ぎ、幼児教育・幼児保育の充実に努めてまいりたいと考えております。

④次に、特別支援教育における公立幼稚園の役割についてであります。これまで、栄幼稚園では、一人一人のニーズに対応する特別支援教育の充実に努めてまいりました。

平成 26 年度には、文部科学省の委託事業である発達障がい等支援モデル事業の指定校として、通常の学級において学習面や行動面で何らかの困難を示す幼児に対し、その幼児が理解しやすいよう配慮した活動など、指導方法の改善等を行う研究事業を実施したところであり、その研究成果は、研修会等を通じて、市内の保育園や私立幼稚園の教育・保育活動の中で活用されているところです。

今後につきましては、栄幼稚園において培われた特別支援の取組成果の実践を市長部局と連携を図りながら認定こども園ひまわりに引き継いで参りたいと考えています。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (3) 栄幼稚園の閉園案について

質問内容

今後 3 年間、建物の老朽化を含め、熊、不審者への園児の安全性対策はどうするのか、また美術館を訪れる方に対する建物の耐震化、熊などへの対策はどう考えているのか。

そして、今回、閉園の素案が示されてから、保護者やまちづくり懇談会などでの地域の方との意見交換、さらに議会議論など、栄幼稚園の在り方に付いての議論が、私としまして、まだ十分にされていないのではないかと思います。これらの事に付いて、どのようにお考えか、教育長に伺います。

答弁内容

(栄幼稚園がある旧栄小学校校舎について) であります。老朽化が進んでいることから、屋根や外壁の一部を改修する必要があるとともに、木造校舎の耐震化工事を実施する場合は、景観に配慮した工事を行わなければならないことから、改修に当たっては、見積はしておりますが、工事方法を含め、相当額の費用が掛かるものと考えているところです。

また、熊や不審者から園児の生命を守るための対策についてであります。熊が敷地に入らないようにするためには、アルテピアッ

ツア美唄の敷地の四方を電気柵で囲う必要があり、概算で180万円の経費が必要となるほか、電気柵の設置後は、この柵を降雪前に取り外し、春に取り付ける作業費に加え、電気柵のメンテナンス費用や日々の見回り点検に係る経費などが、毎年50万円程度、発生するものと試算しております。しかしながら、電気柵を設置しても、完全に熊の侵入を防ぐことはできないことや園児や来訪者の接触の危険性があるとともに、アルテの景観上、電気柵の設置にも課題があることから、閉園までの間は、学校、教育委員会、保護者、地域の方々など関係各位へのご理解とご協力を得ながら、園児の安全確保に努めてまいりたいと考えております。

次に、保護者や地域への説明についてであります。これまで、栄幼稚園の保護者説明会を2回、自治組織代表者会議やまちづくり地区懇談会の中で、今後の出生数の減少や栄幼稚園のおかれているセキュリティ対策の脆弱性等を理由に、閉園の説明を行ってきたところであります。

これら説明会等におきまして、保護者の方からは園児が卒園するまで閉園しないでほしいという声をいただき、また保護者以外の方からは、アルテピアッツア美唄との景観、共に歩んできた歴史・背景から存続を求める声を頂き、また、存続を求める市民の方々からも多くの署名があったところであります。

教育委員会といたしましては、自然の中で子どもたちが遊び、そして学ぶことは発達段階における幼児教育に必要であるものと受け止めているところでございますが、少子化の現状に加え、あらゆるものから子供たちの命を守り抜くことが何よりも重要であると考え、閉園という苦渋の決断をしたところであります。

今後につきましては、引き続き、様々な場を通じて、保護者や市民の方々の理解を得られるよう、丁寧な説明をし理解していただくとともに、特別支援教育など、公立幼稚園としての機能が、しっかりと継承されるよう、関係部局と連携してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 3 回 定例会 一般質問

再々質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 3 教育行政について

中項目 (3) 栄幼稚園の閉園案について

質問内容

8 月 3 1 日には、2, 218 名の栄幼稚園閉園についての意見署名が手渡されたとの事で現在も署名活動は続いているとの事、このことについては、どのように受け止めているのか、教育長に伺います。

答弁内容

（栄幼稚園の存続に対する署名について）であります、市民からは 1, 471 件、市外からは 747 件の署名を頂き、署名活動は継続していることに対しましては、真摯に受け止めているところであります。

しかしながら、教育委員会には、子どもの命を守るという最優先すべき責務があることに加え、今後、少人数で幼稚園機能を維持することに対する諸課題を踏まえ、平成 32 年 3 月 31 日の閉園について苦渋の決断をしたところであります。

今後につきましては、引き続き、様々な場を通じて、保護者や市民の方々に閉園について、ご理解が得られるよう丁寧な対応に努めてまいりたいと考えおります。